

ダイジェスト版

# 高1生の英語学習に関する調査

〈2015-2019 継続調査〉



## 調査概要

### ● 調査テーマ

高校生の英語学習に関する意識と実態

### ● 調査方法

郵送による自記式質問紙調査

### ● 調査時期

2019年3～4月上旬

### ● 調査対象

全国の高校1年生（971名）

\* 本調査の一部回答者は、小学6年生のときに「小学生の英語学習に関する調査」（2015年3月実施）、中学1年生のときに「中1生の英語学習に関する調査」（2016年3～4月上旬実施）、中学3年生のときに「中3生の英語学習に関する調査」（2018年3～4月上旬実施）にも回答している。

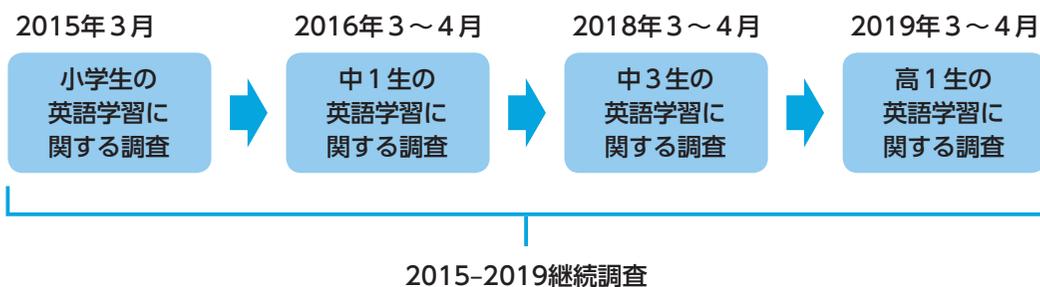
\* 「小6→中1→中3→高1」とすべての調査に回答した有効回収数は372名。Part2については、すべての調査に回答した372名を母体にして分析している。

\* 東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所共同研究「子どもの生活と学び」研究プロジェクトの調査モニター。

### ● 調査項目

\* 授業時間／英語の授業でしていること／英語の授業での活動／授業で英語を話す時間／授業や宿題で英語を話す時間／英語の授業に対する意識／英語の授業での関心・意欲・態度／評価／先生の英語使用割合／授業中の先生の働きかけ／授業の理解度／授業の楽しい・楽しくない／英語の好き・嫌い／英語の得意・苦手／苦手と感じるようになった時期／英語の成績の自己評価／英語のつまずき／勉強時間／授業の予習・復習／学校外学習／自主的に英語に触れること／外国や英語との関わり／英語に関する意識／身につけたい英語力／英語の必要性／将来の英語使用／英語学習観 など

## 調査の枠組み

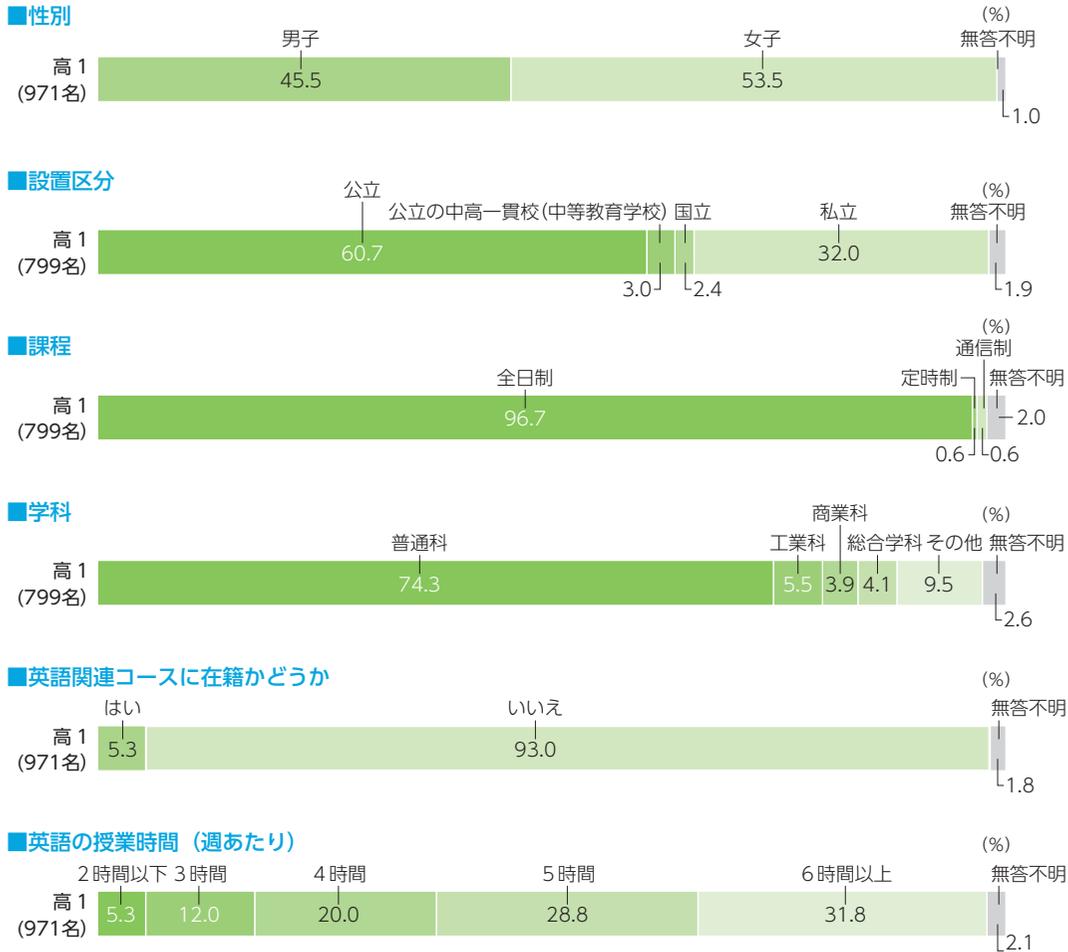


〈過去の調査〉

調査名	調査時期	調査対象	調査方法
小学生の英語学習に関する調査	2015年3月	全国の小学5年生、6年生とその保護者1,565組	郵送による自記式質問紙調査
中1生の英語学習に関する調査	2016年3～4月	全国の中学1年生1,170名	郵送による自記式質問紙調査
中3生の英語学習に関する調査	2018年3～4月	全国の中学3年生1,003名とその保護者1,009名	郵送による自記式質問紙調査

\* 2014年3月に、同様の調査テーマで「中高生の英語学習に関する実態調査」を実施している。対象は全国の中1生～高3生6,294名。調査方法は郵送法による自記式質問紙調査。本ダイジェスト版内(P.5,11)で、参考値として「中高生の英語学習に関する実態調査2014」の高1生の数値を紹介している。調査の詳細については、ベネッセ教育総合研究所のWebサイトを参照されたい。

## 基本属性



\*設置区分、課程、学科については、「子どもの生活と学び」研究プロジェクトの「子どもの生活と学びに関する親子調査2018」の回答者のうち、本調査に回答した人で算出した。

## CONTENTS

調査概要・調査の枠組み	2	1-8 授業の予習・復習	11
基本属性	3	1-9 英語の校外学習	12
Part 1 高1生の英語学習の実態		1-10 英語に関する意識①	13
1-1 英語を話す時間・書く機会	4	1-11 英語に関する意識②	14
1-2 英語の授業でしていること	5	Part 2 小6→中1→中3→高1の変化	
1-3 英語の授業での活動	6	2-1 英語の授業における関心・意欲・態度	15
1-4 先生の英語使用割合と働きかけ	7	2-2 英語の授業に対する意識	16
1-5 先生の働きかけと生徒が英語を話す時間	8	2-3 英語の授業の理解度と好き嫌い	17
1-6 英語の得意・苦手と 苦手を感じるようになった時期	9	2-4 英語に触れる機会	18
1-7 英語学習のつまずき	10	英語ができればやってみいたいこと	19

## 1-1 英語を話す時間・書く機会

高1生が、授業で英語を話している時間は、5分以上が25.6%。  
授業や宿題で英語を書く機会は、「週に1・2回」以上が29.1%。

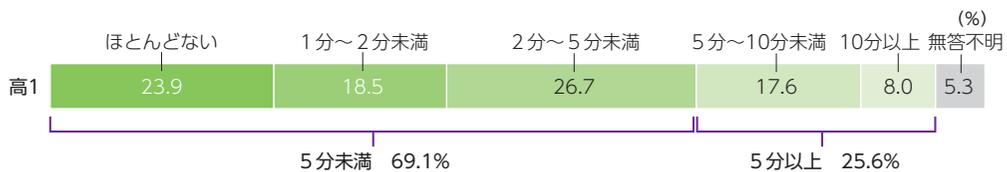
高1生が、音読やリピート練習以外で、1回の授業で英語を話している時間は、5分以上が25.6%。5分未満が69.1%。そのうち「ほとんどない」は23.9%。

また、授業や宿題で自分の意見や考え、感想などを英語で書く機会は、「週に1・2回」以上（「週に1・2回」+「週に3・4回」+「週に5・6回以上」）が29.1%、「月に1～3回」が31.2%、「ほとんどない」が34.1%と、それぞれ約3割。



1回の英語の授業で、あなたが英語を実際に話している時間はどれくらいですか（音読・リピート練習は含めません。授業によって違うときはおよその平均を教えてください）。

図1-1 授業で英語を話す時間



学校の授業や宿題で、あなたが自分の意見や考え、感想などを英語で書く機会はどれくらいありますか。

図1-2 授業や宿題で英語を書く機会



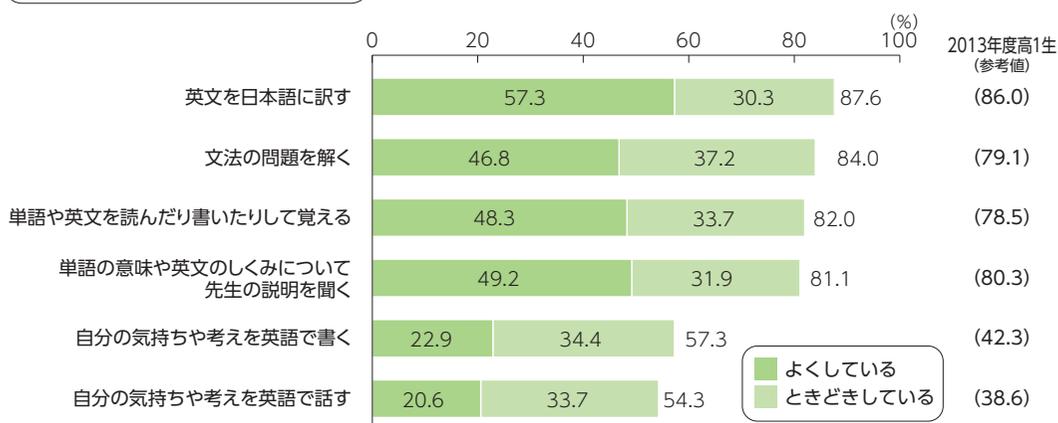
# 1-2 英語の授業でしていること

授業で「訳す・問題を解く・覚える・説明を聞く」をしているのは8割台。一方、「自分の気持ちや考えを書く・話す」は5割台。

英語の授業で、高1生は「英文を日本語に訳す」「文法の問題を解く」「単語や英文を読んだり書いたりして覚える」「単語の意味や英文のしくみについて先生の説明を聞く」をそれぞれ8割台が「している(よく+ときどき、以下同)」。一方、「自分の気持ちや考えを英語で書く」「自分の気持ちや考えを英語で話す」を「している」はそれぞれ5割台。

**Q** 学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていますか。

図1-3 授業でしていること



\* 外側にある数値は「よくしている」+「ときどきしている」の%。

\* 「中高生の英語学習に関する実態調査2014」(2014年3月実施)

\* p.2に調査説明あり。

表A 【授業でしていること】 (授業で英語を話す時間別)

「よくしている」+「ときどきしている」の%

	全体 N=971	1回の英語の授業で英語を実際に話している時間				
		ほとんどない	1分~2分未満	2分~5分未満	5分~10分未満	10分以上
英文を日本語に訳す	87.6	84.1	87.8	89.2	88.9	84.6
文法の問題を解く	84.0	<u>76.7</u>	< 85.0	87.3	86.0	88.5
単語や英文を読んだり書いたりして覚える	82.0	<u>72.0</u>	<< <b>87.2</b>	<b>87.3</b>	84.2	82.1
単語の意味や英文のしくみについて先生の説明を聞く	81.1	<u>72.4</u>	< 78.9	< <b>88.0</b>	85.4	83.3
自分の気持ちや考えを英語で書く	57.3	<u>36.2</u>	<< 54.4	<< <b>64.5</b>	68.4	<< <b>80.8</b>
自分の気持ちや考えを英語で話す	54.3	<u>30.2</u>	<< <b>44.4</b>	<< <b>64.1</b>	< 71.9	< <b>78.2</b>

\* 太字は、全体平均値よりも5ポイント以上、**□**は10ポイント以上高いもの。

\*    は、全体平均値よりも5ポイント以上、   は10ポイント以上低いもの。

\* <>は、差が5ポイント以上、<<>>は10ポイント以上のもの。

「授業でしていること」を「授業で英語を話す時間別」にみた。英語を話す時間が長いほど、「自分の気持ちや考えを英語で書く・話す」を「している(よく+ときどき)」比率が高い傾向がある。「訳す・問題を解く・覚える・説明を聞く」といった活動とあわせて、英語を話す時間が長い生徒ほど、授業でいろいろなことをしていることがみてとれる。

# 1-3 英語の授業での活動

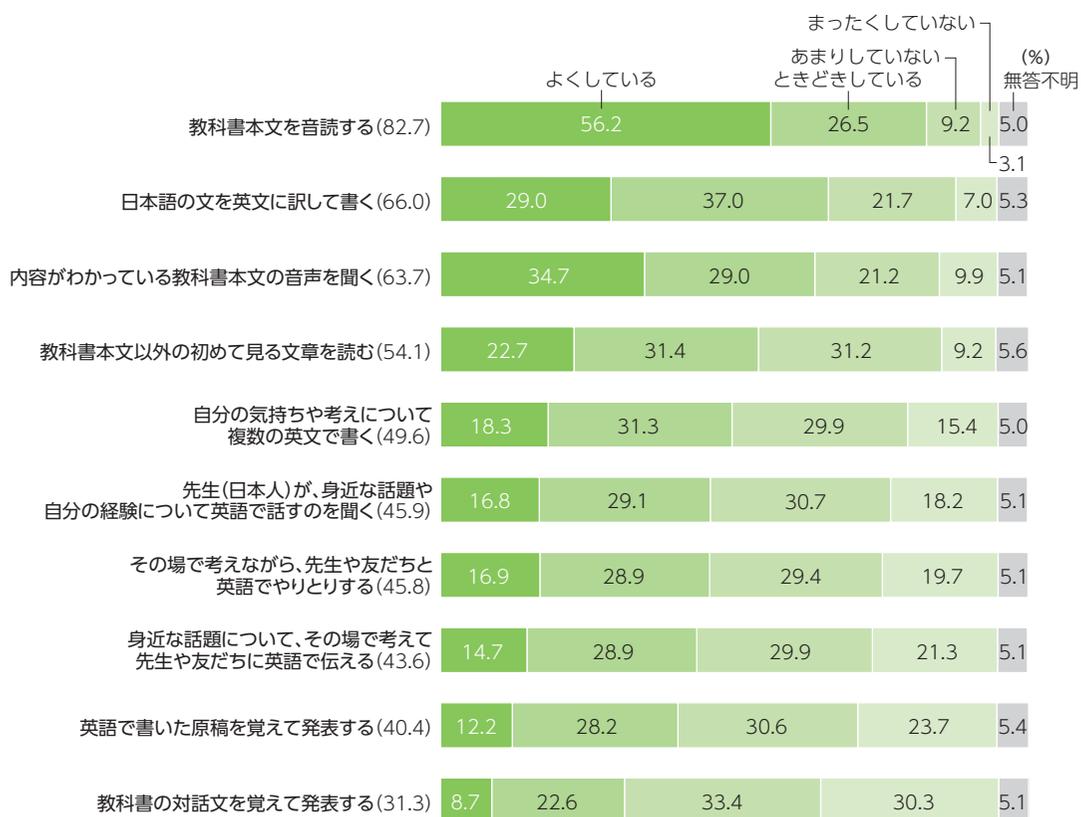
## 「教科書本文を音読する」は高1生の8割強が行っている。

英語の授業での活動についてたずねたところ、「教科書本文を音読する」が82.7%（「よくしている」+「ときどきしている」、以下同）ともっとも高く、「よくしている」比率も56.2%と他の項目に比べて高い。次いで、「日本語の文を英文に訳して書く」（66.0%）、「内容がわかっている教科書本文の音声を聞く」（63.7%）が続く。



学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていますか。

図1-4 授業での活動



\* ( )内の数値は「よくしている」+「ときどきしている」の%。

# 1-4 先生の英語使用割合と働きかけ

## 高1生の英語の授業で、先生の6割強は半分以上英語を使って授業を進めている。

英語の授業での先生の英語使用割合について高1生にたずねたところ、先生の6割強は半分以上(「50%くらい」+「70%くらい」+「ほとんど英語で授業している」)英語を使って授業を進めているという回答だった。また、授業での先生について聞いたところ、「英語で言ったことの文法や単語の誤りについて正しい英語で言い直してくれる」「英語で話していることを一生懸命聞いてくれる」について、8割以上が「とてもあてはまる(とても+まあ)」と回答している。

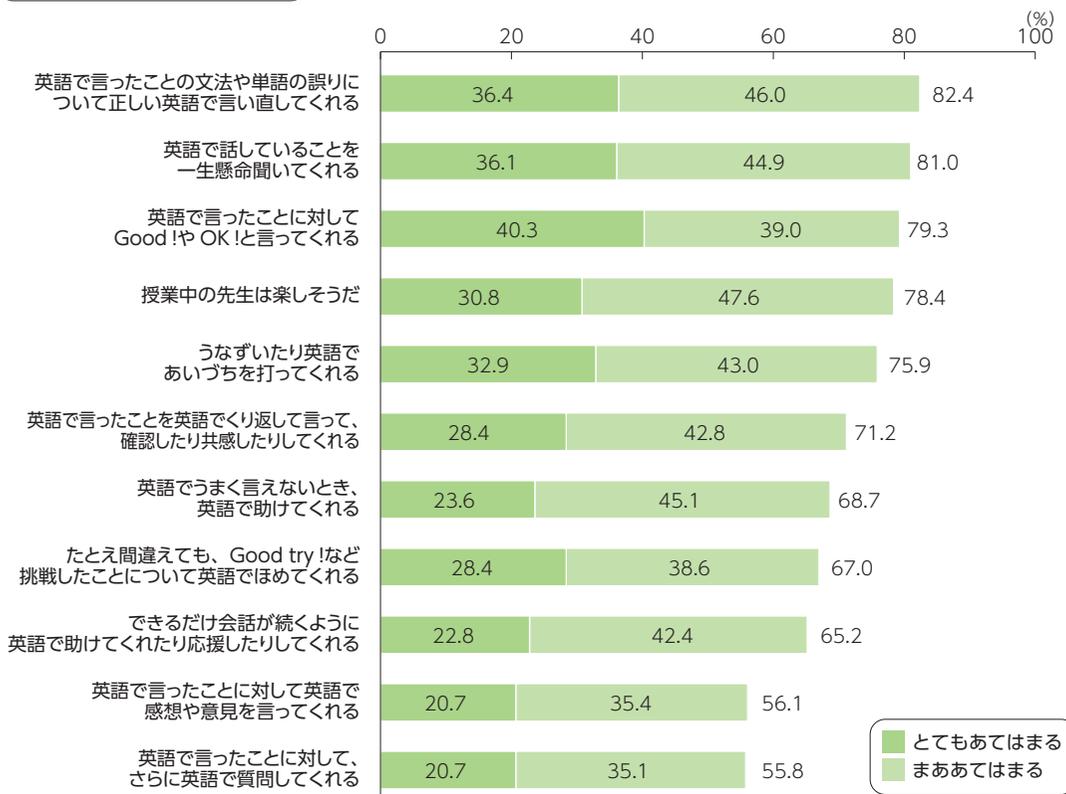
**Q** 英語の授業で、日本人の先生はどれくらい英語を使って授業を進めていますか。

図1-5 先生の英語使用割合



**Q** 授業で英語の先生(日本人の先生)について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図1-6 先生の働きかけ



\* 外側にある数値は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

# 1-5 先生の働きかけと生徒が英語を話す時間

## 授業で生徒が英語を話す時間が長いほど、先生による働きかけの種類が多い。

英語の授業での、先生から生徒への働きかけと、生徒が授業で英語を話す時間との関連をみた。授業で生徒が英語を話す時間が長いほど、先生が生徒に行う働きかけの種類が多く、全体値よりも比率が高い項目が多い。また、英語を話す時間が「ほとんどない」場合を除くと、「英語で言ったことの文法や単語の誤りについて正しい英語で言い直してくれる」「英語で話していることを一生懸命聞いてくれる」「英語で言ったことに対して Good！や OK！と言ってくれる」「うなずいたり英語であいづちを打ってくれる」は、授業で生徒が英語を話す時間の長さによる差が少ない。

表1-1 先生の働きかけ（授業で英語を話す時間別）

「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%

	全体 N=971	1回の英語の授業で英語を実際に話している時間					
		ほとんど ない	1分～ 2分未満	2分～ 5分未満	5分～ 10分未満	10分以上	
英語で言ったことの文法や単語の誤りについて正しい英語で言い直してくれる	82.4	<u>74.6</u>	<	82.8	86.9	84.2	87.2
英語で話していることを一生懸命聞いてくれる	81.0	<u>66.4</u>	≪	84.4	84.9	<b>88.3</b>	<b>89.7</b>
英語で言ったことに対して Good！や OK！と言ってくれる	79.3	<u>66.8</u>	≪	83.3	83.4	<b>85.4</b>	<b>87.2</b>
授業中の先生は楽しそう	78.4	<u>68.5</u>	<	78.3	< <b>84.2</b>	81.9	< <b>88.5</b>
うなずいたり英語であいづちを打ってくれる	75.9	<u>58.6</u>	≪	77.8	<b>81.5</b>	<b>85.4</b>	<b>84.6</b>
英語で言ったことを英語でくり返して言って、確認したり共感したりしてくれる	71.2	<u>55.2</u>	≪	71.7	< <b>77.2</b>	<b>79.5</b>	<b>83.3</b>
英語でうまく言えないとき、英語で助けてくれる	68.7	<u>53.4</u>	≪	65.0	≪ <b>76.1</b>	<b>77.8</b>	<b>78.2</b>
たとえ間違えても、Good try！など挑戦したことについて英語でほめてくれる	67.0	<u>49.1</u>	≪	68.3	<b>72.2</b>	<b>74.3</b>	≪ <b>87.2</b>
できるだけ会話が続くように英語で助けてくれたり応援したりしてくれる	65.2	<u>49.1</u>	≪	61.1	< <b>71.0</b>	<b>75.4</b>	< <b>80.8</b>
英語で言ったことに対して英語で感想や意見を言ってくれる	56.1	<u>33.2</u>	≪	<u>49.4</u>	≪ <b>63.3</b>	< <b>71.9</b>	≪ <b>84.6</b>
英語で言ったことに対して、さらに英語で質問してくれる	55.8	<u>35.3</u>	≪	51.1	≪ <b>63.3</b>	< <b>70.8</b>	<b>74.4</b>

\* 太字は、全体平均値よりも5ポイント以上、**■**は10ポイント以上高いもの。

\*    は、全体平均値よりも5ポイント以上、   は10ポイント以上低いもの。

\* <>は、差が5ポイント以上、≪≫は10ポイント以上のもの。

# 1-6 英語の得意・苦手と苦手と感じるようになった時期

英語が「得意(とても+やや)」と回答した高1生は4割強。苦手と感じるようになった時期は、「中1の前半」と「高1の前半」。

英語が「得意(とても+やや)」と回答した高1生は44.0%、「苦手(やや+とても、以下同)」と回答した高1生は55.4%。

「苦手」と感じるようになった時期は、「中1の前半」が18.2%と最も高く、次いで、「高1の前半」が17.3%と続く。

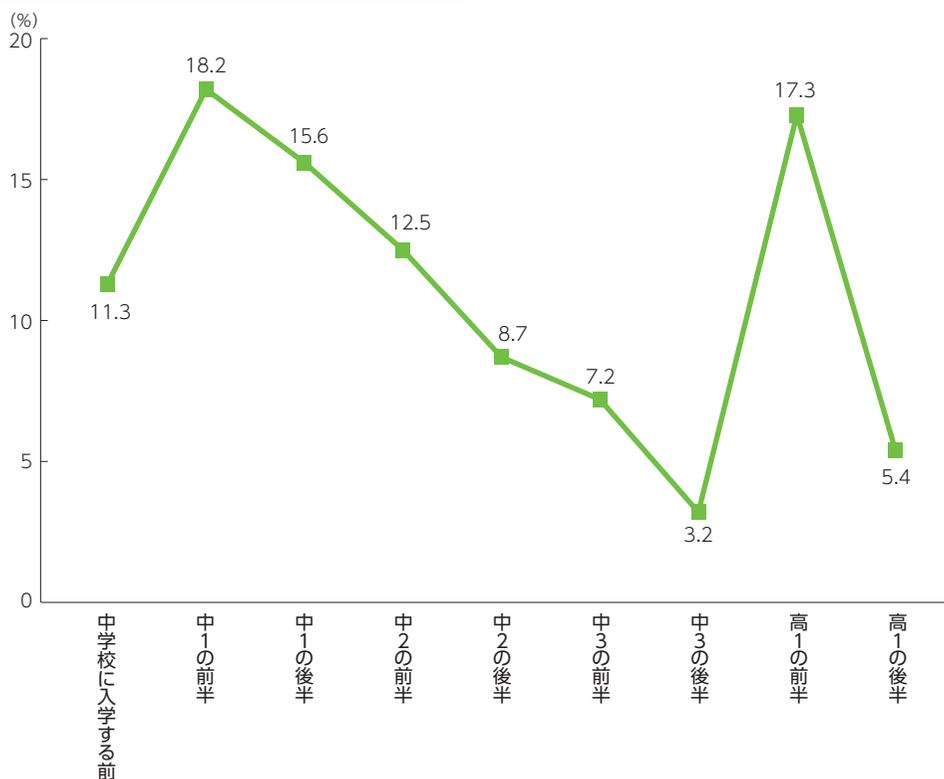
Q 学校の英語の授業についてお聞きます。あなたは、英語が得意ですか、苦手ですか。

図1-7 英語の得意・苦手



Q あなたが、英語を苦手と感じるようになったのはいつ頃からですか。

図1-8 英語を苦手と感じるようになった時期



\* 英語の「得意・苦手」について「やや苦手」「とても苦手」と回答した538名の回答。

# 1-7 英語学習のつまずき

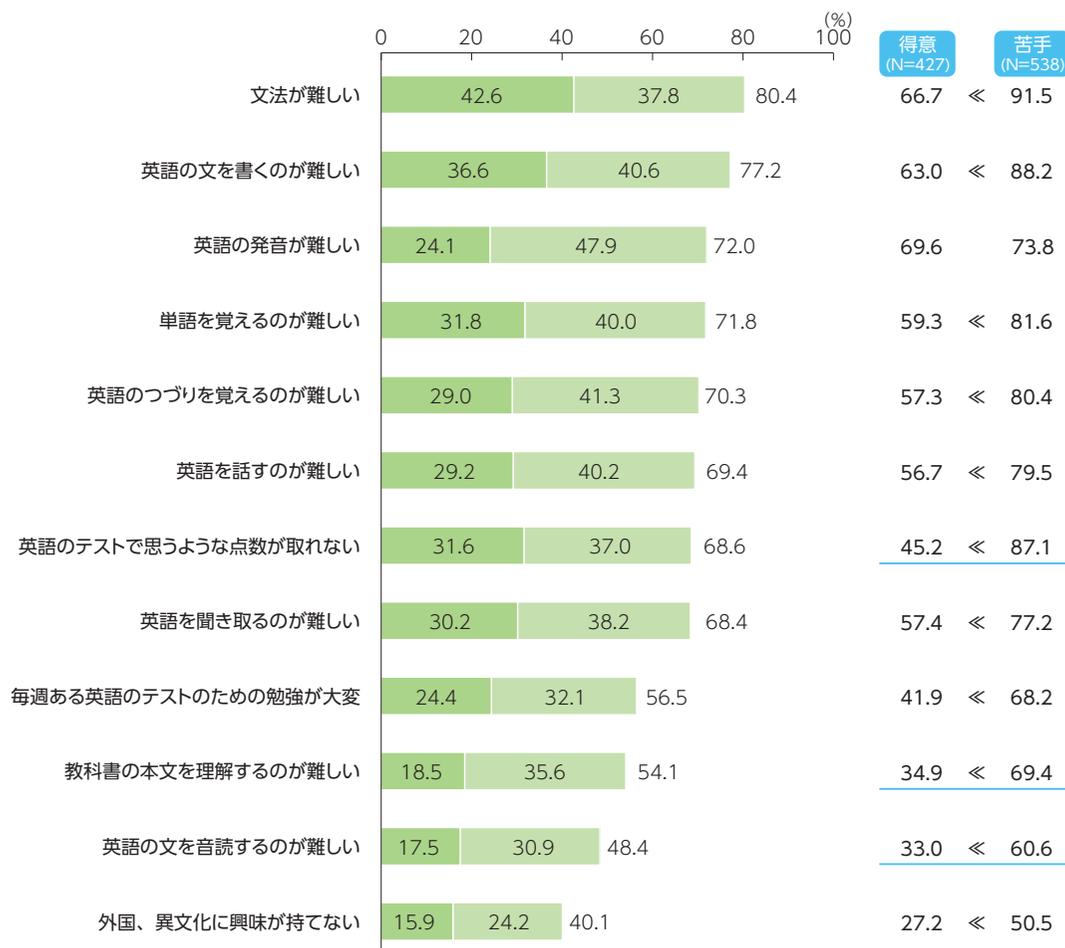
## 英語の学習において「文法が難しい」と感じている高1生が8割。

英語の学習において、「文法が難しい」「英語の文を書くのが難しい」「英語の発音が難しい」「単語を覚えるのが難しい」「英語のつづりを覚えるのが難しい」と、7～8割の高1生が感じている。

英語の「得意(とても+やや)」「苦手(やや+とても)」別にみると、ほとんどの項目で大きな差があり、特に「英語のテストで思うような点数が取れない」「教科書の本文を理解するのが難しい」「英語の文を音読するのが難しい」などで差が大きかった。

**Q** 学校の英語の学習にかかわることについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図1-9 つまずき



■ とてもあてはまる  
■ まああてはまる

\* 外側にある数値は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

\* 英語の「得意・苦手」について「得意(とても+やや)」と回答した427名と、「苦手(やや+とても)」と回答した538名の回答。

\* <<>は差が10ポイント以上のもの。

\* 下線は、「得意」「苦手」で差が大きい上位3項目。

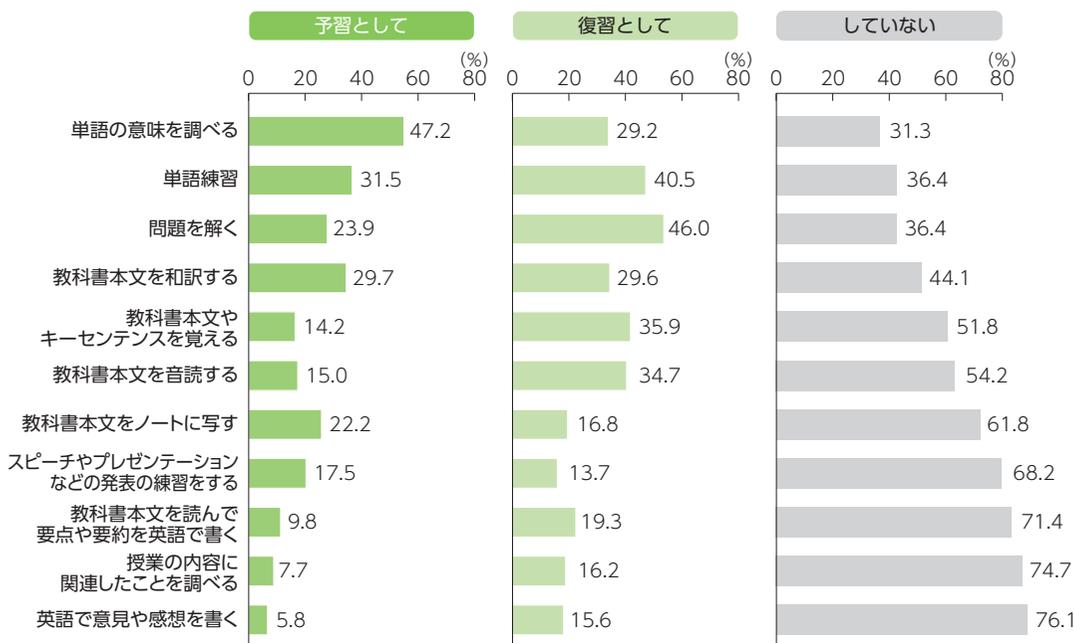
予習では「単語の意味を調べる」、復習では「問題を解く」がもっとも多い。

授業の予習・復習についてみると、予習では「単語の意味を調べる」「単語練習」「教科書本文を和訳する」、復習では「問題を解く」「単語練習」「教科書本文やキーセンテンスを覚える」がよく行われている。



あなたはふだん、学校の英語の授業のためにどのような勉強をしていますか。それぞれについてあてはまるものをすべて選んで、空らん(O)を記入してください。予習でも復習でもしている場合は、両方にOをつけてください。

図1-10 授業の予習・復習



\*「ふだん、学校の英語の授業のためにどのような勉強をしていますか」という問いで、「予習として」「復習として」「していない」のうちあてはまるものすべてに回答してもらったもの。

\*複数回答。 \*「無答不明」は省略。

### 予習・復習TOP 3

#### 【予習】

- 第1位 単語の意味を調べる (47.2%)
- 第2位 単語練習 (31.5%)
- 第3位 教科書本文を和訳する (29.7%)

#### 【復習】

- 第1位 問題を解く (46.0%)
- 第2位 単語練習 (40.5%)
- 第3位 教科書本文やキーセンテンスを覚える (35.9%)

### 2013年度高1生 (参考値)

\*「中高生の英語学習に関する実態調査2014」(2014年3月実施)  
\* p.2に調査説明あり。

#### 【予習】

- 第1位 単語の意味を調べる (61.9%)
- 第2位 教科書本文を和訳する (43.1%)
- 第3位 教科書本文をノートに写す (34.7%)

#### 【復習】

- 第1位 問題を解く (51.4%)
- 第2位 単語練習 (47.9%)
- 第3位 教科書本文やキーセンテンスを覚える (40.6%)

## 学校の授業以外で、英語や英会話の勉強をしている高1生は2割強。

学校の授業以外で、英語や英会話の勉強をしている高1生は23.9%だった。そのうち「学習塾」が53.9%、「書店で売られている教材」が16.4%、「英会話教室」が15.5%、「塾などの映像授業」が11.2%と、上位にあがった。

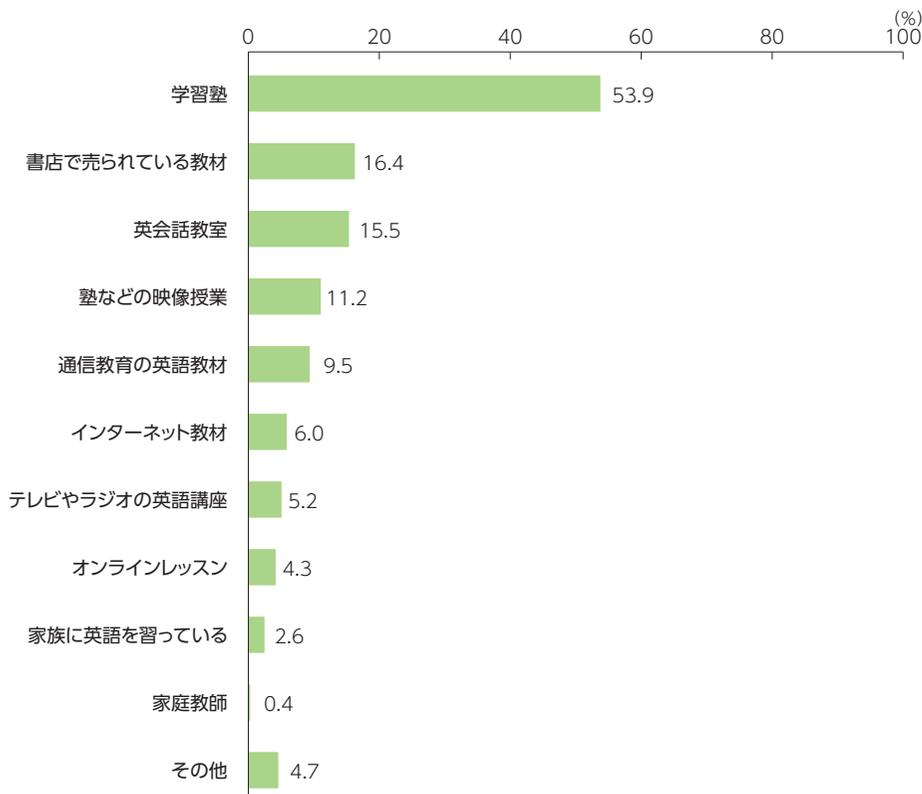
**Q** あなたは現在、学校の授業以外で、英語や英会話の勉強をしていますか。

図1-11 校外学習の有無



**Q** 「している」に○をつけた人にお聞きます。どのような方法で英語や英会話の勉強をしていましたか。

図1-12 校外学習の種類



\* 校外学習を「している」と回答した232名のみ回答。

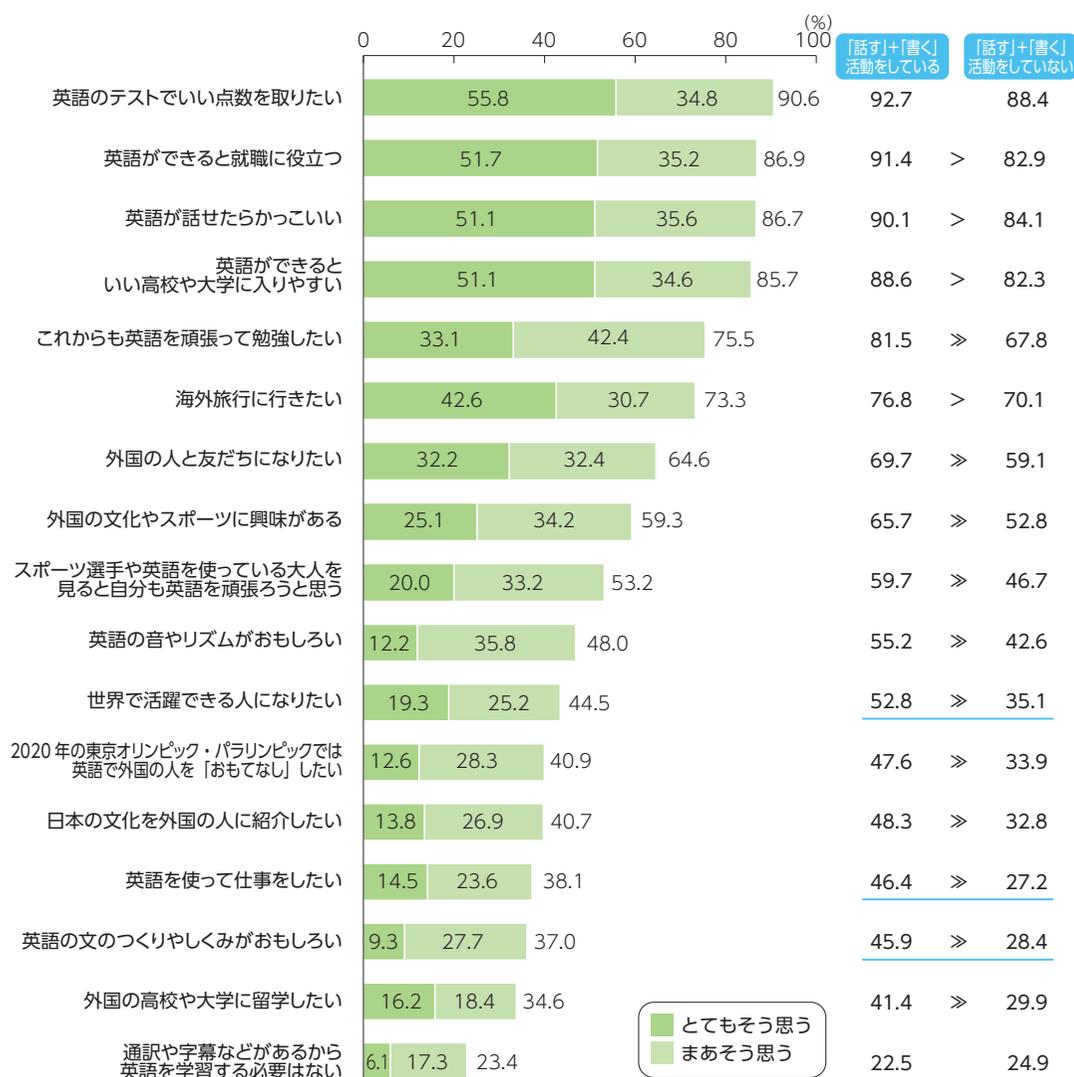
\* 複数回答。 \* 「無答不明」は省略。

「英語のテストでいい点数を取りたい」「英語が話せたらカッコいい」とともに、就職・入試などに英語は役立ちそうだという意識が高1生では強い。

「英語のテストでいい点数を取りたい」「英語ができると就職に役立つ」「英語が話せたらカッコいい」「英語ができるといい高校や大学に入りやすい」について高1生の8~9割が、「そう思う(とても+まあ)」と回答している。授業での「『話す』+『書く』活動」の有無で差が大きかったのは、「英語を使って仕事をしたい」「世界で活躍できる人になりたい」「英語の文のつくりやしきみがおもしろい」だった。

**Q** あなたは、以下のことについてどう思いますか。

図1-13 英語に関する意識



\* 外側にある数値は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

\* <>は差が5ポイント以上のもの、<<>>は差が10ポイント以上のもの。

\* 「話す」+「書く」活動をしている」「話す」+「書く」活動をしていないの詳細についてはp.14図Aの注釈を参照。

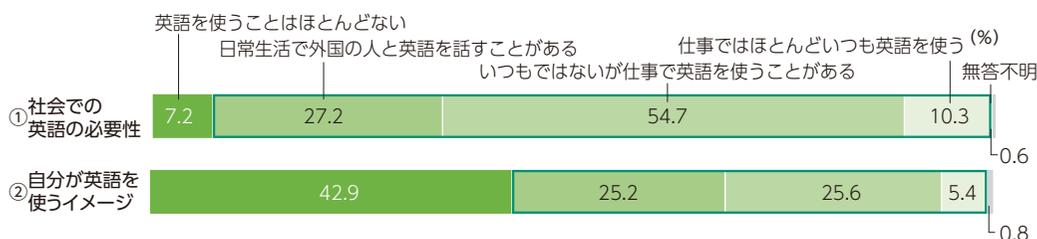
\* 下線は、「話す」+「書く」活動をしている」「話す」+「書く」活動をしていないで差が大きい上位3項目。

## 高1生は英語の必要性を感じているものの、将来、自分自身が使うイメージは低い。

約9割が、大人になったとき、社会での英語の必要性を感じている一方で、自分自身の英語使用をたずねると、約4割が「英語を使うことはほとんどない」と回答している。

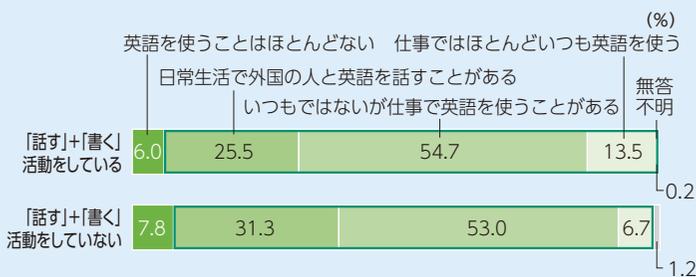
**Q** あなたが大人になったとき、①社会ではどれくらい英語を使う必要がある世の中になっていると思いますか。また、②あなた自身はどれくらい英語を使っていると思いますか。

図1-14 社会での英語の必要性と自分が英語を使うイメージ

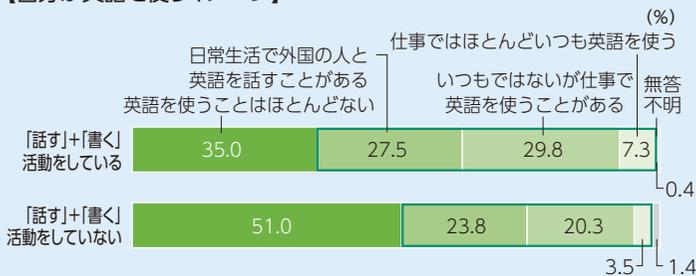


図A【社会での英語の必要性と自分が英語を使うイメージ】(「話す」+「書く」活動の有無別)

### 【社会での英語の必要性】



### 【自分が英語を使うイメージ】



\*「学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていますか」という問いに対して、「自分の気持ちや考えを英語で話す」「自分の気持ちや考えを英語で書く」について、どちらも「している(よく+ときどき)」と回答した群を「『話す』+『書く』活動をしている」群(466名)、どちらも「していない(あまり+まったく)」と回答した群を「『話す』+『書く』活動をしていない」群(345名)としている。「話す」活動のみ、「書く」活動のみを「している(よく+ときどき)」と回答した群は省略した。

【社会での英語の必要性】と【自分が英語を使うイメージ】について、学校の授業での「話す」+「書く」活動の有無別に見た。

【社会での英語の必要性】に対する意識には、授業での「話す」+「書く」活動の有無で大きな差はみられなかったが、将来、【自分が英語を使うイメージ】については、違いがみられた。学校の授業で「話す」+「書く」活動をしていないの場合は、半数以上が、将来、自分が「英語を使うことはほとんどない」と回答しているが、「話す」+「書く」活動をしている場合は、「英語を使うことはほとんどない」という回答は、3割強にとどまり、6割強が、将来、何らかの形で英語を使うと回答している。

## 2-1 英語の授業における関心・意欲・態度

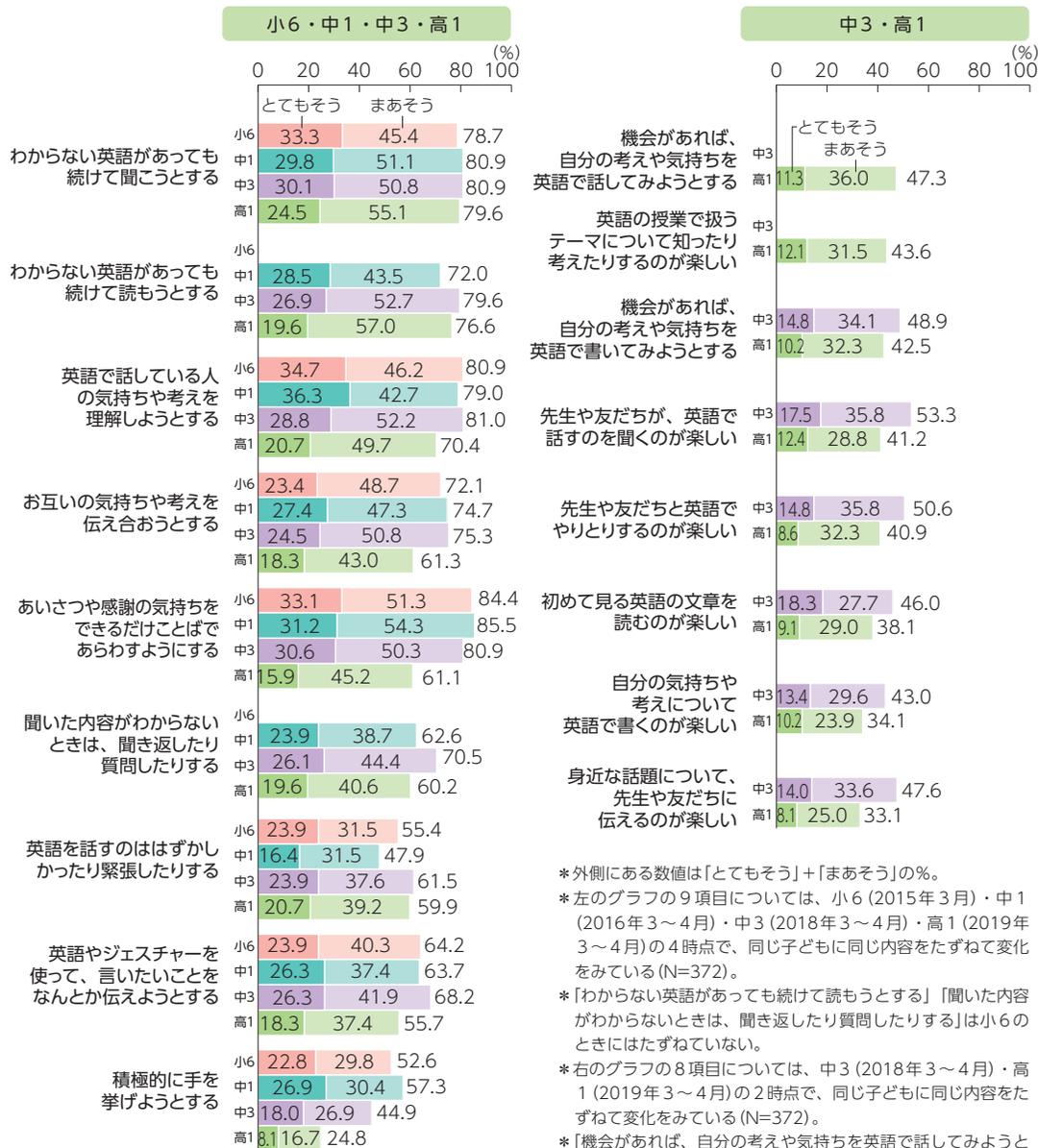
「わからない英語があっても続けて聞こうとする」意欲は小6から高1まで約8割をキープ。

授業における関心・意欲・態度の小6→中1→中3→高1の変化をみてみた。「わからない英語があっても続けて聞こうとする」はほとんど変わらず、約8割をキープしている。また、中3→高1の変化をみた項目では、「身近な話題について、先生や友だちに伝えるのが楽しい」「先生や友だちが、英語で話すのを聞くのが楽しい」「先生や友だちと英語でやりとりするのが楽しい」などで減少している(差が大きい上位3項目)。



学校の英語の授業では、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図2-1 関心・意欲・態度



\* 外側にある数値は「とてもそう」+「まあそう」の%。

\* 左のグラフの9項目については、小6(2015年3月)・中1(2016年3~4月)・中3(2018年3~4月)・高1(2019年3~4月)の4時点で、同じ子どもに同じ内容をたずねて変化をみている(N=372)。

\* 「わからない英語があっても続けて読もうとする」「聞いた内容がわからないときは、聞き返したり質問したりする」は小6のときにはたずねていない。

\* 右のグラフの8項目については、中3(2018年3~4月)・高1(2019年3~4月)の2時点で、同じ子どもに同じ内容をたずねて変化をみている(N=372)。

\* 「機会があれば、自分の考えや気持ちを英語で話してみようとする」「英語の授業で扱うテーマについて知ったり考えたりするのが楽しい」は、中3のときにはたずねていない。

## 2-2 英語の授業に対する意識

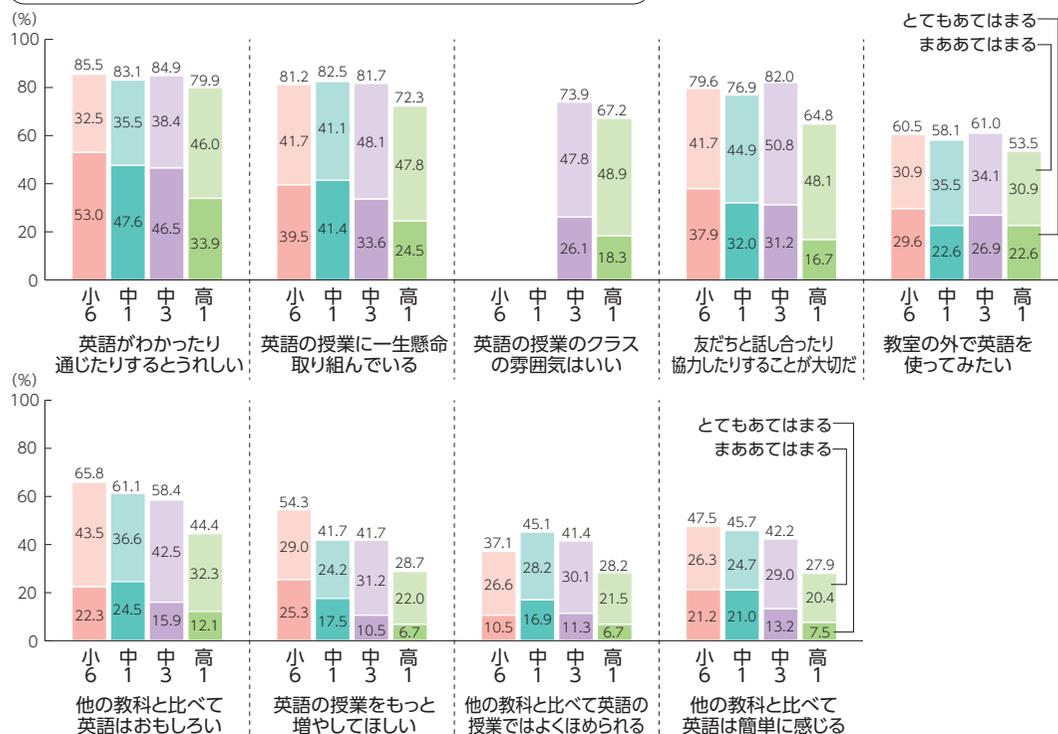
「英語がわかったり通じたりするとうれしい」気持ちは、変わらず約8割。

英語の授業に対する意識の小6→中1→中3→高1の変化をみた。「英語がわかったり通じたりするとうれしい」はほとんど変わらず約8割。一方、「友だちと話し合ったり協力したりすることが大切だ」は、高1では中3のときよりも17.2ポイント減少している。



学校の英語の授業について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

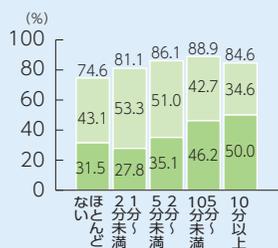
図2-2 英語の授業に対する意識（小6・中1・中3・高1）



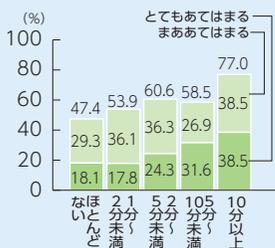
\* 「英語の授業のクラスの雰囲気はいい」は、小6、中1のときにはたずねていない。 \* N=372

図B 高1生の【英語の授業に対する意識】（授業で英語を話す時間別）

英語がわかったり通じたりするとうれしい



教室の外で英語を使ってみよう



高1生の英語の授業に対する意識のうち、左記の2つの項目について「授業で英語を話す時間別」にみた。

「英語がわかったり通じたりするとうれしい」は、「授業で英語を話す時間」が「ほとんどない」場合を除き、8割以上が「あてはまる（とても+まあ、以下同）」と回答している。「教室の外で英語を使ってみよう」では、「授業で英語を話す時間」が「10分以上」だと「あてはまる」が77.0%と高い。

\* 上にある数値は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

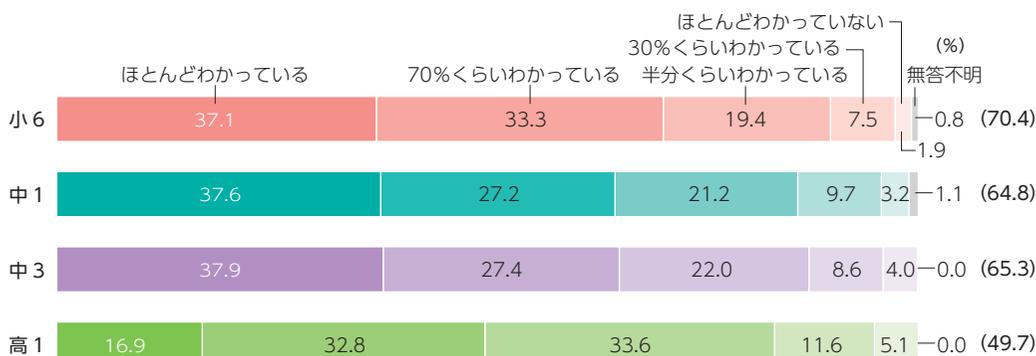
## 2-3 英語の授業の理解度と好き嫌い

英語の授業について、「わかっている(ほとんど+70%くらい)」「好き(とても+まあ)」ともに、小6→中1→中3での減少と比べて、高1では大きく減少。

英語の授業の理解度についてたずねたところ、小6→中1→中3では「わかっている(ほとんど+70%くらい)」の回答は6~7割(70.4%→64.8%→65.3%)で推移していたが、高1では5割弱(49.7%)となる。また、英語の授業の好き嫌いについては、小6→中1→中3では「好き(とても+まあ)」の回答は6~7割(71.0%→66.4%→64.5%)で推移していたが、高1では5割強(56.4%)となる。

**Q** 学校の英語の授業についてお聞きます。学校の英語の授業をどれくらい理解していますか。

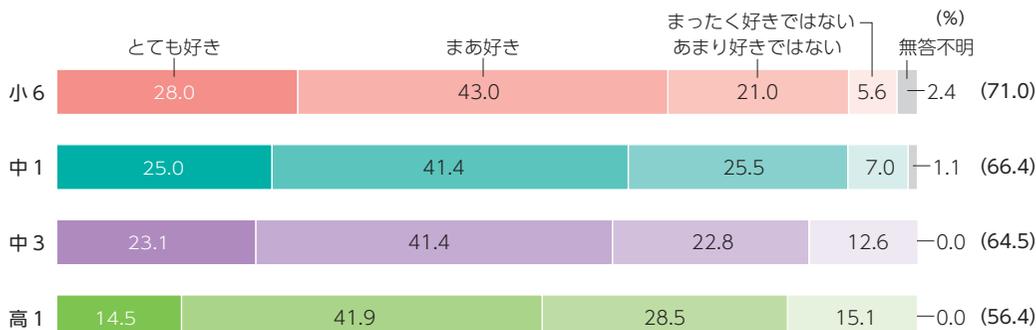
図2-3 英語の授業の理解度 (小6・中1・中3・高1)



\* ( )内の数値は「ほとんどわかっている」+「70%くらいわかっている」の%。 \* N=372

**Q** 学校の英語の授業についてお聞きます。英語は好きですか。

図2-4 英語の授業の好き嫌い (小6・中1・中3・高1)



\* ( )内の数値は「とても好き」+「まあ好き」の%。 \* N=372

## 2-4 英語に触れる機会

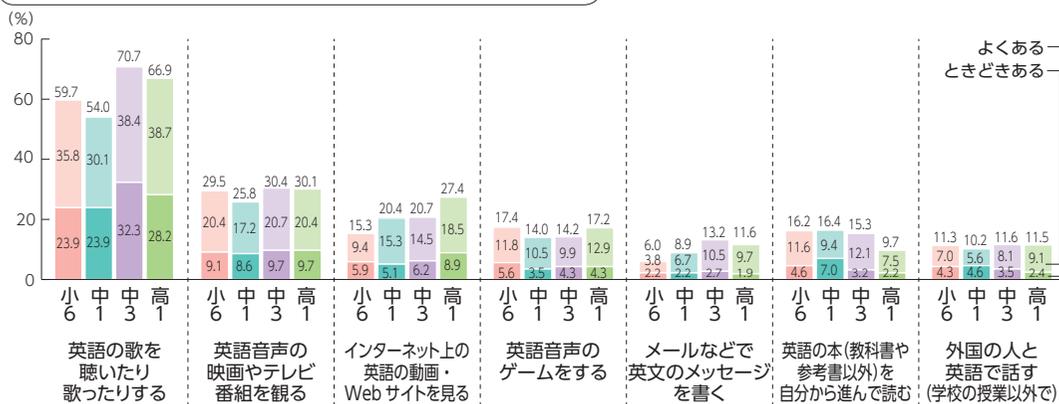
### 「英語の歌を聴いたり歌ったりする」高1生は7割弱。

英語に触れる機会は全般的に少ない。「英語の歌を聴いたり歌ったりする」は、小6→中3で11.0ポイント増加し、高1でも7割弱が「ある(よく+ときどき)」と回答している。



現在、ふだんの生活で、英語に触れることはどれくらいありますか。

図2-5 英語に触れる機会 (小6・中1・中3・高1)



\* N=372

表B 高1生の【英語に触れる機会】(授業で英語を話す時間別・授業や宿題で英語を書く機会別)

	全体 N=971	1回の英語の授業で英語を 実際に話している時間					英語の授業や宿題で 自分の意見や考え、感想などを書く機会				
		ほとんど ない	1分~2 分未満	2分~5 分未満	5分~10 分未満	10分以上	ほとんど ない	月に1~ 3回	週に1・ 2回	週に3・ 4回	週に5・ 6回以上
		英語の歌を聴いたり歌ったりする	67.7	63.4	64.4	68.0	70.8	80.8	62.5	66.3	73.9
英語音声の映画やテレビ番組を観る	32.6	28.0	29.4	34.4	37.4	39.7	25.7	32.0	37.4	53.2	52.9
インターネット上の英語の動画・Webサイトを見る	29.0	24.1	23.3	32.8	32.7	38.5	22.7	25.4	35.0	54.8	58.8
英語音声のゲームをする	16.3	11.2	15.6	20.5	18.7	16.7	13.6	13.5	20.2	32.3	23.5
メールなどで英文のメッセージを書く	12.9	9.1	5.6	13.9	19.9	21.8	7.3	9.2	22.2	30.6	11.8
英語の本(教科書や参考書以外)を自分から進んで読む	12.9	8.2	10.6	12.7	17.0	25.6	7.9	9.2	16.7	38.7	41.2
外国の人と英語で話す(学校の授業以外で)	12.2	6.5	8.9	12.0	19.3	24.4	7.3	10.2	16.3	32.3	35.3

\* 太字は、全体平均値よりも5ポイント以上、 は10ポイント以上高いもの。

\*  は、全体平均値よりも5ポイント以上低いもの。

高1生の英語に触れる機会について、「授業で英語を話す時間別」と「授業や宿題で英語を書く機会別」にみた。「授業で英語を話す時間」が長いほど、また、「授業や宿題で英語を書く機会」が多いほど、英語に触れる機会が多いことがみてとれる。一方で、授業や宿題で英語を話す時間や英語を書く機会が少なくても、ふだんの生活で英語に触れている高1生もいることがわかる。

# 英語ができればやってみたいこと

**Q.** もし、英語ができればどんなことをしたいですか。  
夢でも構わないので自由に書いてください。

本調査では、中1<sup>\*1</sup>・中3<sup>\*2</sup>・高1<sup>\*3</sup>それぞれの時点の調査において、上記の質問をしている。継続調査のため、同じ生徒の回答の変化をみることができる。ここでは、同じ生徒の3つの時点の回答を紹介する。その生徒の英語の得意／苦手の状況もあわせて紹介する。

※1「中1生の英語学習に関する調査」2016年3～4月実施。 ※2「中3生の英語学習に関する調査」2018年3～4月実施。 ※3「高1生の英語学習に関する調査」2019年3～4月実施。  
※基本的に原文のまま掲載している。

中1



たくさんの外国人と話して、仲良くなる。

\*中1→中3→高1と継続して「得意(とても、またはやや)」

中3

外国人の友達ともっと仲良くなる。

高1

- ・カナダとフィリピンにいる友達とたくさん話す。
- ・将来外国で働く。



通訳、トークしたい。

\*中1→中3→高1と継続して「得意(とても、またはやや)」

外国に行って自分がどれだけ英語を使えるのかためしてみたい。授業とは絶対ちがうだろうな。

通訳。具体的にどういうのがあるのかイメージできない。



英語の先生になりたい。海外旅行に行きたい。

\*中1→中3→高1と継続して「苦手(やや、またはとても)」

外国の人がしゃべっているままの英語を直接きいてみたい。

- ・イギリスに旅行に行きたい。
- ・英語教えたい。



将来の仕事で外国人の人に買ってもらえる服を作り、販売する。

\*中1→中3→高1と継続して「得意(とても、またはやや)」

助産師として、海外の病院の人手が足りない所へ行き、お産を助けたいです。

助産師になることが夢なので、日本に旅行に来ている外国人の方が急に産をすとなっても、かっこよく対応したい。



プロ野球の選手になりたいのでチームの外国人と英語で話したい。

\*中1→中3→高1と継続して「苦手(やや、またはとても)」

収入の良い仕事したい。

外国の人も楽しんでプレイできるようなゲームを作ること。



海外の論文や、海外の学者の話聞いて、研究者になった自分の研究にとりいれる。

\*中1→中3→高1と継続して「得意(とても、またはやや)」

世界中の人々と仕事をしたい。

次の言語に挑戦する。



すらすらしゃべってみること。

\*中1→中3→高1と継続して「苦手(やや、またはとても)」

英語で友達と会話する。

話してみたい。書いてみたい。なんにも見ないで文を書いてみたい。



外人と協力して仕事をすすめていきたい。

\*中1→中3は「苦手(やや、またはとても)」、高1は「得意(とても、またはやや)」

外国に進出して働いてみたい。

外国の会社で働きたい。

ダイジェスト版

## 高1生の英語学習に関する調査

〈2015-2019継続調査〉

【調査企画・分析メンバー】

根岸 雅史（東京外国語大学大学院教授）

酒井 英樹（信州大学教授）

高木 亜希子（青山学院大学教授）

長沼 君主（東海大学教授）

金子 真理子（東京学芸大学教授）

工藤 洋路（玉川大学准教授）

重松 靖（国分寺市立第二中学校校長）

津久井 貴之（お茶の水女子大学附属高等学校教諭）

加藤 由美子（ベネッセ教育総合研究所言語教育研究室室長）

福本 優美子（ベネッセ教育総合研究所言語教育研究室研究員）

森下 みゆき（ベネッセ教育総合研究所言語教育研究室研究員）

※所属・肩書きは、発刊時のものです。

---

ベネッセ教育総合研究所 言語教育研究室 Webサイトのご案内

 **ベネッセ 言語教育研究室**

<http://berd.benesse.jp/global/>

---

ダイジェスト版「高1生の英語学習に関する調査〈2015-2019継続調査〉」

2020年1月15日発行

発行人：谷山 和成 編集人：加藤 由美子

発行所：(株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所

〒206-8686 東京都多摩市落合1-34

編集協力：(株)ジー・アンド・ピー

執筆協力：降旗 佳子 大内 初枝

表紙デザイン：MONDO graphic

©Benesse Educational Research and Development Institute

無断転載を禁じます。

19EE03